1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4079800225
法人名	社会福祉法人　福寿会
事業所名	グループホーム　なごみの丘　第1ユニット
所在地	福岡県田川郡福智町伊方2594-1
自己評価作成日	平成28年1月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社　アーバン・マトリックス　福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成28年1月18日	評価結果確定日	平成28年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

福智山系の山々が連なる緑豊かな自然環境の中に、「グループホームなごみの丘」は位置しています。広々とした敷地の中には、母体となる30年の歴史を持つ特別養護老人ホームが隣接しており、合同行事等により日常的に交流が図れている。また、なごみの丘は、ゆとりある広さを持ち共同空間は清潔感があり、木の温もりも感じれる明るい空間となっており、それぞれの場所でくつろいでいる姿がみられます。職員は入所者の望む生活スタイルを大切にし日々知識、技能の習得に努め、その有する能力を発揮し笑顔の絶えないように支援していきたいと日々のケアに取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

社会福祉法人福寿会を母体とする「なごみの丘」は、広大な敷地の中に平屋建て2ユニットのゆとりある生活空間を有している。隣接する特別養護老人ホームとの連携により、運動会・バーベキュー大会、合同慰霊祭、合同旅行等が企画され、地域交流や社会参加の機会として日常の活性化に取り組んでいる。豊かな生活環境の中での日々の暮らしは、個別のライフスタイルや時間の流れ、居場所の確保等に配慮しながら、本人本位の柔軟な対応に努めている。喜怒哀楽の表出や人と人との関係性を大切にしながら、理念の具現化に取り組んでいる。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：25,26,27）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：20,40）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：40）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：38,39）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：32,33）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
64	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：30）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,21）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,22）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
68	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念と共に、独自の理念を揚げており「安心、ふれあい、ゆとり」を目標として入所者一人ひとりを尊重し、個別のニーズに応じたサービスの提供に努めている。	理念は目に付きやすい場所への掲示や唱和を通じて、毎日の支援の中で実践できるよう努めている。理念やグループホームの意義について、研修計画の中に盛り込み、共有や実践に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	同法人の併設施設の行事等に参加し、地域住民やボランティアまた幼稚園児との交流がある。今後はホームでの行事(園芸・踊り等)を通じて交流を充実させていきたいと考えている。	保育園児との定期的な交流のほか、地域の山笠、神幸祭、餅つき大会、町内の敬老会参加等の地域交流がある。.また年1回の法人の運動会やバーベキュー大会には、地域の方々を招待している。今後ボランティアの方によるリズム体操の導入を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々が訪問された際は、地域の方々からの相談を受けた時は、自分たちが実践していることを伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族の方、老人会会長、民生委員の方からの意見を元に話し合いを行いサービス向上に活かしている。	地域老人会会長や民生委員、地域包括支援センター職員、法人の評議員等の出席を得て、2ケ月に1回、運営推進会議を開催している。家族の参加は少ないが、案内状や議事録を毎回送付している。会議では利用者の状況や活動報告、行事予定などが話し合われ、参加者から必ずコメントを頂いて、サービス向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	福智町グループホーム連絡協議会に参加し情報交換や共有に努めているまた、役場に訪問した際は、困難な事例等を相談している。	福智町グループホーム連絡協議会の会議が2ヶ月ごとに開催され、町役場担当者や地域包括支援センター職員も出席している。運営推進会議には、地域包括支援センター職員の出席を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やむをえない場合を除き、入所者一人ひとりの状態に合わせ身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。職員間でも共有認識を図っている。	研修等にて、「禁止の対象となる具体的な行為」や、言葉や対応による抑制についても意識を高めている。個別のリスクを検討し、環境整備を工夫したり、家族の同意を得てセンサー利用の事例がある。安易な拘束とならないよう共有認識を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	定期的に部内研修を行い。共有認識を計っている。今後は、グレイゾーン(言葉使い)にも注意を払って行く。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	福智町グループホーム連絡協議会での研修会に参加し部内研修を行っている。	行政も参加する福智町グループホーム連絡協議会での研修に参加し、内部での伝達を図り、権利擁護に関する制度について学ぶ機会を確保している。現在制度を活用している方はいないが、必要時には情報提供が行えるよう資料を整備している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に十分な説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の中で話し合いを行っている。今後は家族会発足に向けた働きかけを行って行きたい。	日常の中で利用者や家族の意見の収集に努めている。運営推進会議の開催案内を行っているが、現在のところ家族の出席は得られていない。	運営推進会議や家族会開催、アンケート調査実施等、利用者及び家族の意見や要望を積極的に収集する機会として、今後の働きかけが期待されます。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月会議を実施し、可能な限り意見を反映するように努めている。	月末に2ユニット合同で職員会議を開催している。職員全員参加を基本とし、今後はユニットごとの会議についても検討課題としている。備品の購入や環境整備等の意見が出され、検討と反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を活用し向上心が持てるように努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあったては、年齢や性別による排除は行っていない。また、得意分野を発揮できるように配慮している。法人としては、人事考課制度を取り入れている。	職員の採用にあたり、年齢や性別等による排除は行われていない。法人としての採用となり、管理者も面接に立ち会い、適性を考慮している。休憩の時間や場所の確保、有給休暇や産休の取得等に配慮し、働きやすい職場環境づくりに努めている。半年ごと目標設定や評価、個人面談等を通じて、人事考課につなげている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	理念の中で「個人の尊重」を謳っており、一人ひとりが理念の共有・実践に努めることで人権尊重につながっている。高齢者虐待防止や身体拘束についても、会議や日々の中で指導を徹底している。	認知症ケアや高齢者虐待防止等の研修や、朝礼時に報道等による事例について考える機会を持つ等、人権教育、啓発に努めている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修にも積極的に参加し職員間での情報共有に努めている。部内研修も定期的に行いOJTに努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福智町グループホーム連絡協議会の勉強会や親睦会に参加し情報の共有を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプランを作成する前に本人からの要望や生活歴の聞き取りを十分に行っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前から、家族の不安や要望を聞き取り信頼関係が築けるように話し合いを行っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	2泊3日の体験入所を実施しており、必要とあれば関係サービス機関との連携を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の知恵や得意分野など教えて貰うことも多く、同じ時間を過ごしながら支えあう関係づくりに努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の力が必要と考えられる時は、協力をお願いして外出等の機会を一緒に検討している。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人、家族が希望されことがあれば馴染みの場所、面会に行けるように外出の支援を行っている。	自宅の様子や老人会の活動場所等の様子を見に出かけたり、地域行事に参加している。家族との連携も図りながら、お墓参りに出かけている。新聞の購読や書信のやり取りを支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの趣味、思考を見つけ馴染みの関係ができるように支援を行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要とあれば病院や関係施設との連携を図っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向を伝えることが困難な方には、表情や行動、家族や関係者からの情報を参考にして、本人本位のケアが行えるように努めている。	初回アセスメント時に、本人、家族より基本的な情報や生活歴、趣味等について聴取している。日常の中から、言葉や表情等から推し測り、思いや意向の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の聞き取りの中で今までの生活歴を重視している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	集団生活の場に置いても個人の生活スタイルや身体状況に応じて対応するように努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成に置いては、ケアマネージャーだけではなく職員間で話し合いながらケアプランを作成している。	本人、家族の意向を踏まえ、医師の意見書等をもとに協議を行い、介護計画を作成している。毎月、担当職員による介護計画の実施状況報告がなされ、3ヶ月ごとのケア会議を通じて現状の確認と見直しの必要性について検討している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月月末には、担当職員に1ヶ月間の実施報告を行ってもらい次回のケアプラン作成に反映している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状の変化があればその都度柔軟な対応を行いサービスを変更していている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れ等を検討している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医だけではなく、本人・家族の望む元で最良の治療を受けられるように努めている。	入居の際に、本人、家族の意向によるかかりつけ医を確認し、家族との連携を図りながら受診を支援している。また、協力医による訪問診療（2回/月）や訪問歯科診療（1回/月）、訪問看護（1回/週）等、医療との連携体制を整え、適切な医療を受けられるよう支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者に変化があれば、訪問看護師に報告・相談を行い適切な受診や治療を受けれるように努めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中にドクターと家族の話し合いの場があれば参加させて頂いている。また、定期的に病院訪問し病院関係者との関係づくりを行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化における対応方針の説明を行っている。	入居の際に、重度化や終末期向けた対応について、指針をもとに説明を行い、意向確認及び同意を得ている。状況の変化に応じて、同法人施設や医療機関との連携も含めた対応について、その都度話し合いを行い、方針の共有に努めている。看取りに関する外部研修に参加している。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命救急訓練を行っている。また、外部研修にも参加している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防避難訓練を行うと共に、地域の消防団の方に協力をお願いしている。	年２回、昼夜を想定した避難訓練を実施している。消防団に所属する職員や近隣に住む職員もおり、自動通報装置には携帯電話番号が登録されている。	地震や風水害を想定した災害対策についても、地域や法人内の連携を活かし、準備していくことが期待されます。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングや日々のケアの中で、入所者に対する声掛けや対応方法について、常に配慮するように意識向上に努めている。個人情報の取り扱いのも十分注意を払っている。	入室時の確認や排泄ケア、入浴時の対応について、特に留意し、職員間で注意しあっている。個人情報の漏洩防止のため、シュレッダーやUSBの取り扱いにも気配りしている。個別のライフスタイルや時間の流れ等の尊重に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人本位を尊重し自己決定ができるように支援を行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかなスケジュールは設定しているが、一人ひとりのライフスタイルを尊重した支援に努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は、本人の馴染みの物を家族に持って来ていただくようにお願いしている。お化粧は、職員と一緒に行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方と一緒に同じテーブルを囲んで食事をするように努めている。出来る方には、準備・片づけを一緒に行っている。	法人厨房より食事は提供され、盛り付けや配膳、後片付け等に力を発揮してもらっている。焼き芋や干し柿作り、ぜんざい、たこ焼き等、おやつ作りを皆で楽しむ機会もある。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じて栄養補助食品や食事形態を変更し柔軟に対応している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力歯科医に毎週来てもらい、口腔ケアの実践や対応・指導を行って頂いてもらっている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ使用者でも、排泄の訴えがあれば排泄介助を行っている。排泄パターンを掴む為にチェツク表を活用している。	排泄チェック表を作成し、個別の状況の把握に努めている。同性介助を基本とし、プライバシーへの配慮を心がけながら声掛けや誘導を行っている。夜間は個別の状況を検討し支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ホーム内での運動を行っている。水分補給についても状況に合わせて対応している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人、家族の希望にあわせて毎日の入浴にも対応している。また、車椅子のまま浴室に入れる浴室も設置している。	毎日入浴準備を行い、希望や体調、清潔保持に留意しながら、入浴支援を行っている。共秘される方には、声掛けやタイミングを工夫し、無理強いとならないよう配慮している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日の生活での休息時間とその日の体調を見て対応している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方があった際は、その薬の用法・副作用の確認を行っている。解らない時は、その都度看護師に確認している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の献立を書いて頂いたり、モップ掛けを行って頂ったりし個別の役割を決め対応している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、園庭の散歩を行ったりドライブに行っている。家族にも本人の意向を伝え協力して頂いている。	月に1回程度、外出行事を企画し、季節の花見等に出かけている。敷地内は広く整備されているため、日常的に外気浴を行いやすい環境である。同法人施設の企画する一泊旅行に参加する方もおられる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族の了解があれば金銭を渡している。また、買い物に行った際は、出来る限り支払を行えるように支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人からの電話があれば取りついている。手紙のやり取りも支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや食堂、堀り炬燵のある和室等、広々とした空間があり、それぞれの場所でくつろいでもらっている。観葉植物や季節の花また、利用者と職員による共同制作の作品も飾られている。	ゆとりある広さの共用空間は、採光もよく開放的である。湿度管理や感染対策にも留意し、環境整備に努めている。掘り炬燵のある和室は集いの場となり、天気の良い日にはウッドデッキで外気浴を行うこともできる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者一人ひとりの生活スタイルに応じて過ごしやすい場所・空間を提供している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室に関しては、本人・家族の方が望むように決めて頂いている。また、家族の方には出来る限り馴染みの物を持ってきて貰うようにしている。	共用空間と居室空間が緩やかに分けられており、プライバシーに配慮された造りとなっている。寝具は定期的に天日干しや乾燥機にかけられ、居室内も清潔感がある。馴染みのものや家具の持ち込みを家族にも依頼し、動線にも配慮しながら設置している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	弱視の方や車椅子の方が安全に移動できるように危険物を取り除くようにしている。整理整頓に努めている。		